

地球温暖化と稲作—模擬温室を使ったイネの栽培実験

温暖化防止うらやす「地球温暖化と稲作」グループ

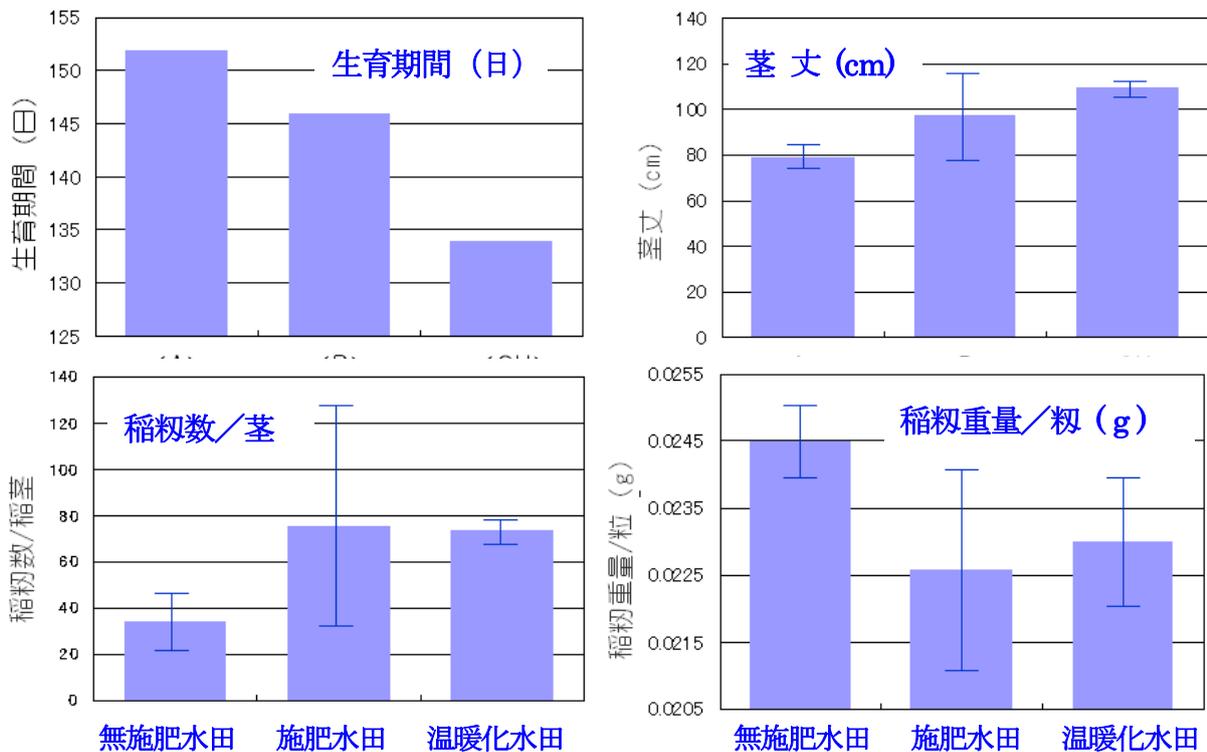
1. はじめに： 現在、地球規模の温暖化がさまざまな方面へどのように影響するかを正確に評価することは困難です。それが農業生産、たとえば稲作にどのような影響をおよぼすかについても定かではありません。しかしイネ(コメ)は世界の主要な食料源であり、我が国の重要農産物でもあることから、温暖化が稲作にどのように、どの程度の影響を与えるのかを明らかにすることはたいへん重要なことでありましょう。温暖化防止うらやすは、私達なりにこうした問題の解明に取り組むことにしました。

2. イネ栽培の試み： 栽培品種＝無農薬無化学肥料で5年以上栽培したコシヒカリ、土壌条件＝山砂と赤土からなる有機肥料畑の土、施肥＝薫炭と油かす(一部は化学肥料)、または無肥料。

2015年5月22日に模擬水田に田植え、6月初旬に一部の模擬水田にビニール製のシートを被せ、温室化しました。これを、温暖化した水田とみなすこととしました。10月前半に登熟し、稲刈りを実施しました。



3. 無施肥の水田<A>、施肥のある水田、温暖化条件(温室内)での水田<GH>の三種の水田からのモミの収穫状況を比較しました。



4. おわりに： こうした結果は環境の温暖化が稲作に明確な影響を及ぼすことを示していますが、定量的評価については今後も継続した実験栽培が必要であることがわかりました。